

市立札幌大通高等学校の取組【読書：図書館活用授業】

1 研究のねらい

本校は、開校から 11 年目を向かえた比較的新しい定時制高校である。また、単位制であること、午前部・午後部・夜間部の三部制となっていることから、生徒の登校時間はそれぞれ異なっている。そのため「朝読書」といった習慣的かつ一斉に行う活動は困難である。さらに、各部の生徒が利用できるよう図書室の開館時間は 10 時半から 19 時半（20 時半の日もある）までとなっており授業時間と開館時間が重なっていることから、授業等で図書室を活用することは難しい状況にある。このような制約の中で、いかに読書を推進し、図書室の利用者を増やしていくかが本校の課題である。現在図書室のアピール活動は図書局員が担っている。そのため、まずは局員の資質向上と、局活動においてどのような取り組みが利用者数を増やすうえで効果的かといったことを検証する。

2 取組内容

(1) 図書局員の資質向上

①「ブックハンティング」（選書ツアー）の実施

本校では初の試みとして、紀伊國屋書店札幌本店に協力いただき「ブックハンティング」を実施した。局員 6 名と一般生徒 1 名の合計 7 名が参加し、1 時間半を制限時間として本を選んだ。選書の基準を、「雑誌・漫画・ライトノベル以外の「図書室にふさわしいもの・不足しているもの」とし、64 冊の書籍を購入した。その後、購入した本の POP を作成し、学校祭で展示して一般生徒に紹介した。普段あまり目にしない本にもふれる機会となり、局員にとって本を知る有意義な時間となった。今後実施の機会があれば、局員だけでなく一般生徒の参加も促し、本に対する興味関心を高めた。



②高文連図書全道大会の参加

10 月 4・5 日に開催された高文連第 40 回全道高等学校図書研究大会に参加した。本校は当番校として、分科会を主催したほか、札幌南高校の図書局員と共に開会式、表彰式、閉会式を担当した。

本番に向け、昨年度から互いの学校を行き来し打合せを重ねてきた。大会を盛り上げるため、札幌南高校ダンス部と本校の和太鼓・伝統部とがコラボレーションするステージを企画したり、おっほんの着ぐるみを登場させたりと様々なアイデアをかたちにすることができた。また、他校の活動の様子を知ることができ、本校の活動を見直すきっかけとなった。



(2) 読書推進と図書室の利用者数増加のための取り組み

① 学校祭

例年、学校祭ではPOP展示と手作りのしおりの配布を行っているが、昨年度からは、読書推進と社会貢献の両方を目的として古本市を開催している。今年度は、来場者数延べ435人、売り上げ23,350円であった。当日来場した数名の生徒からは、普段読んでいないジャンルの本を買ったという話もあった。安価であることから気軽に手に取りやすいということだが、古本市が新たな分野の本と出会うきっかけとなっていることが分かり、今後も継続していきたい。また、売り上げは全額被災地へ寄付している。昨年度は日本赤十字社を通じて各被災地へ寄付をしたが、今年度は本校でボランティア活動をしている生徒と保護者の協力を得て、日用品等を購入し支援物資として厚真町へ届けた。



② プレゼンテーション大会

学校祭と同様に、例年POP展示と手作りしおりの配付を行っている。それに加え、昨年度からは選択授業である「生活国語」の受講生徒と共にビブリオバトルを行っている。本番はもちろんのこと、準備や練習を行う中で、作品の魅力をじっくりと考察したり他者と意見交換したりすることは、読みを深め、本を読むことの面白さ奥深さを改めて実感する良い機会となった。



3 成果と課題

(1) 成果

今年度の取組で一番の成果は、図書局員の意識の向上である。これまでは大半の局員が目標や方法が分からず顧問の指示を待つような状態であったが、立案から実行まで主体的に行おうとする局員が増えた。これは様々な活動を経験したことで、読書や局活動の意義や面白さを再認識すると共に、知識や技術、自分の役割をやり遂げる自信と実行力が身についてきたためだと思われる。



(2) 課題

今年度、図書局員の資質向上という点では概ね成果を得ることができた。しかし、現行の活動では顕著な利用者増加にはつながらなかった。そのため次年度は、次の段階としてこれまでの経験で得たことを生かし校内での活動を充実させたい。また、前述のとおり教科での図書室活用は難しい状況ではあるが、各教科と連携し活用方法を模索したい。